

各関係機関の長
各病虫害防除員 殿

宮崎県病虫害防除・肥料検査センター所長

病虫害防除情報第 4 号

いもち病及びトビイロウンカ、スクミリンゴガイの発生状況についてお知らせします。
各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

- ※ いもち病の防除を徹底しましょう。
- ※ トビイロウンカの初飛来が確認されました。今後の発生状況に注意しましょう。

1. 作物名 普通期水稲
2. 病虫害名 いもち病、トビイロウンカ、スクミリンゴガイ

3. 発生状況

1) いもち病

- ア. 6月中旬の巡回調査における葉いもちの発生面積率は 7.5 % (平年 0.7 %)、発病株率は 0.8 % (平年 0.0 %) で、いずれも平年比多の発生であった。
早期水稲では、一部の地域で「ずり込み症状」のほ場も見られる。
- イ. 今後の天候は、平年と同様に曇りや雨の日が多く、気温は平年より高い確率 50 % と予想されている (鹿児島地方気象台 6 月 18 日発表 1 ヶ月予報) ことから、病徴の進展に好適であり、注意が必要である。
- ウ. アメダスデータを利用したいもち病発生予測システム (BLASTAM) によると 6 月に入って県内各地で感染好適条件が出現しており、今後も発生の拡大が予想される。

表 - 1 6 月中旬の葉いもち発生状況

調査 区分	地点数	程度別発生面積率 (%)				発生面積率 (%)	発病株率 (%)
		甚	多	中	少		
全県	40	0.0	0.0	0.0	7.5	7.5 (0.7)	0.8 (0.0)

※ () 内は平年値

2) トビイロウンカ

- ア. 県内 4 箇所 (延岡市、宮崎市、国富町、都城市) に設置した予察灯のうち、6 月 4 半旬に延岡市で 11 頭 (♀ 8、♂ 3)、国富町で 5 頭 (♀ 3、♂ 2)、都城市で 1 頭 (♀ 1) の誘殺を確認した。

表 - 2 予察灯における誘殺数 (6 月 4 半旬)

延岡市		宮崎市 (農試)		国富町		都城市	
本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
11	0.0	0.0	0.0	5	0.1	1	0.2

3) スクミリングガイ

ア. 6月中旬の巡回調査におけるスクミリングガイの発生面積率は30%(平成6.1%)、
㎡当たり貝数は0.8(平成0.3)でいずれも平成比多の発生であった。

表-3 調査地点における6月中旬のスクミリングガイ発生状況

区分	調査 地点数	程度別発生面積率(%)				発生面積率 (%)	㎡当たり貝数 (個)
		甚	多	中	少		
全県	40	0.0	0.0	17.5	12.5	30.0(6.1)	0.8(0.3)

※()内は平成値

4 防除上の注意

1) いもち病

- ア. 補植用の苗は本田での伝染源となるので、残っているほ場では至急処分する。
イ. 田植え時に育苗箱施薬をしていないほ場では、葉いもちの早期発見につとめ初期防除を徹底する。育苗箱施薬を行ったほ場でも、防除効果が切れるころに葉いもちの発生が多くなる場合があるので注意する。
ウ. 雨の多い時は雨間散布を行い、防除適期を失しないようにする。

2) トビイロウンカ

- ア. 6月4半旬に飛来したトビイロウンカの、第1世代(飛来次世代)幼虫の防除適期は7月2~3半旬、第2世代幼虫の防除適期は8月1~2半旬と予想されるので、発生状況を確認して防除を行う(参考資料:トビイロウンカの発生世代予測を参照)。
イ. 本虫は、株元に生息し、低密度でも増殖率が高く坪枯れを引き起こすので、薬剤は株元に十分到達するよう散布する。
ウ. 箱施薬剤を使用しているほ場でも、薬剤によっては効果が劣る場合があるので発生に十分注意する。

3) スクミリングガイ

- ア. 水稻の被害は、田植え直後から3週間が著しく、その時期に深水状態であるほど食害が激しいので、活着後は浅水で管理する。
イ. 貝の生息数が多い場合は、捕殺するか粒剤の水面施薬を行う。
ウ. 粒剤の水面施薬に際しては、水深が3cm程度になるように調整し、少なくとも7日間はかけ流しや落水はしない。

4) その他

- ア. 防除薬剤等その他の詳細については、各農林振興局・西白杵支庁(農業改良普及センター)、病虫害防除・肥料検査センター等の関係機関に照会すること。
イ. なお、ポジティブリスト制度の施行に伴い、農薬の使用については今まで以上に厳重な注意を払うとともに農薬使用基準を遵守し危害防止に努める。また、周辺作物の栽培状況等に留意し、地域全体で農薬のドリフト防止に努める。

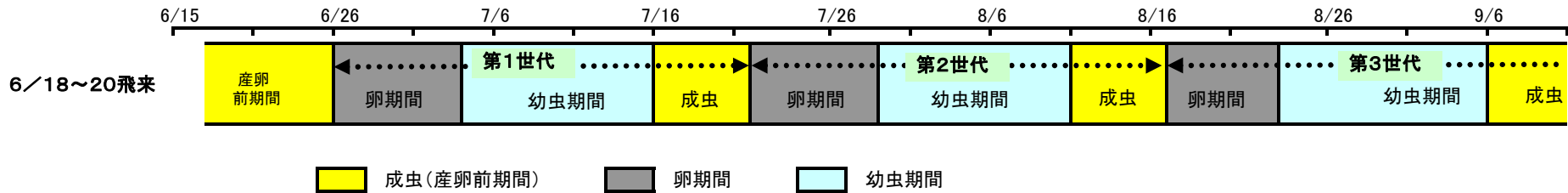
《連絡先》

宮崎県病虫害防除・肥料検査センター 中村

TEL:0985-73-6670 Fax:0985-73-7499

E-mail:byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

トビイロウンカの発生世代予測（平成22年）



※発生世代予測の気温は都城市(6月22日まで実測値、6月23日以降は平年値)を参考にした。
 また、実際の発生は、地域や今後の気温の推移により若干異なる可能性がある。

各発生世代別の防除適期は次のように予測されます

飛来時期	第1世代の防除適期	第2世代の防除適期
6月18日	7月6日 ~ 7月13日	7月31日 ~ 8月7日

各世代発生始期予測

世代	Stage	発生始期
初期侵入世代	成虫	6月18日
	卵	6月26日
第1世代	幼虫	7月4日
	成虫	7月16日
第2世代	卵	7月22日
	幼虫	7月30日
	成虫	8月11日
第3世代	卵	8月17日
	幼虫	8月24日
第4世代	成虫	9月6日
	卵	9月13日
	幼虫	9月22日
	成虫	10月11日

※発生世代予測は「有効積算温度による海外飛来性害虫の発生予測支援システム(Ver. 2.12)(宮崎県総合農業試験場生物環境部寺本氏作成)」より算出。